

平成27年度に係る業務の実績に関する評価結果 国立大学法人千葉大学

1 全体評価

千葉大学は、「つねに、より高きものをめざして」という理念の下、世界を先導する創造的な教育・研究活動を通しての社会貢献を使命としている。第2期中期目標期間においては、総合的で高度な個性ある教育プログラムと最善の環境の提供による有為な人材の育成や世界的な研究拠点を育成し、基礎研究から応用研究までを自由な発想に基づき重層的に推進すること等を目標としている。

この目標達成に向け、学長のリーダーシップの下、国際水準の教養教育をアクティブ・ラーニングで実施し、学部生の留学を必須化した「国際教養学部」を設置するとともに、世界水準の研究を推進する中堅・若手研究グループに対して多面的な支援を行う「リーディング研究育成プログラム」を開始するなど、「法人の基本的な目標」に沿って計画的に取り組んでいることが認められる。

「戦略性が高く意欲的な目標・計画」の取組状況について

第2期中期目標期間においては、次のような「戦略性が高く意欲的な目標・計画」を定め、積極的に取り組んでいる。

- 主体的な学びを通じて課題探求能力を備えた「考える学生」を創造することを目指した計画を定めている。

平成27年度は、アカデミック・リンク・センターにおいて、スチューデント・アシスタント（SA）による学習サポートを継続実施し、計434件利用されており、SAによる文系と理系のレポート作成セミナーを計7回開催し、約200名が参加している。また、PDA方式（一定期間大量のコンテンツが利用可能な環境を用意し、その閲覧回数に基づいて購入タイトルを決定する方式）による電子書籍購入を実施し、利用者の要求に対応したコンテンツを整備している。さらに、能力ルーブリックの開発と実践的SDプログラムの実施により、教育・学修を支援する新たな専門職を安定的・体系的に育成している。

- 金沢大学及び長崎大学との間で、それぞれの強み、特色を生かした予防医学分野の共同大学院の設置に向けた連携を推進する計画を定めている。

平成27年度は、3大学による先進予防医学共同専攻（共同大学院）（平成28年度開設）について、共同大学院の入学者受入方針、教育課程編成方針及び学位授与方針を作成し、平成28年度入学者選抜を実施している。

- 医療系3学部（医学・薬学・看護学）と附属病院が結集した亥鼻（いのはな）キャンパスにおいて、次世代の多様なニーズに応える医療人を総合的に育成するため、司令塔となる「未来医療教育研究機構」を平成26年度に設置するとともに、既存のセンターや研究部門、講座の再編を行うなど教育研究組織を整備する計画を定めている。

平成27年度は、「子どものこころの発達教育研究センター」、「再生治療学研究センター」の設置、薬学研究院及び看護学研究科の再編整備等を行い、治療学推進のための教育研究基盤を整備している。また、未来医療教育研究機構において、弁理士資格を持った助教1名を新たに雇用し、医薬・バイオ系の知財業務や各部局との連携協力体制を強化するとともに、各事業の共通理解を深めるためのミニシンポジウムを開催している。

- 「グローバル千葉大学の新生－Rising Chiba University－」構想の実現に向け、授業科目ナンバリングの導入、「国際日本学」の必修化によるカリキュラムの見直し、ASEAN大学ネットワーク（AUN）との連携推進による共同学習プログラムの開発を行うとともに、入学定員・教員等の学内資源の再配分による新学部の設置準備を行う計画を定めている。

平成27年度は、大学院博士後期課程を除く全授業科目についてコース・ナンバリングを導入するとともに、各学部・研究科（学府）のカリキュラム・ツリー（学科・専攻毎）を公表している。また、「国際日本学」をコア科目として必修化し、他の国際日本学分野の授業科目の導入的な内容と位置づけている。さらに、日本人学生と留学生の共同学習プログラム「グローバル・スタディ・プログラム」を新たに開発し、一部を開講している。この他、新学部である国際教養学部の入学者選抜において、外部の外国語検定試験の加点方式を導入している。

大学の機能強化に向けた取組の状況について

平成27年度及び第3期中期目標期間における「千葉大学のビジョン」及び学長の基本方針である「TOKUHISA PLAN」を策定するとともに、入試担当副学長を増員するなど、学長が全学的なリーダーシップを発揮できる体制をさらに強化している。また、学内資源の再配分による経営力の強化や大学の強み・特色を生かした機能強化を進めていくため、教員の重点再配置や多様な教員配置を示した「第3期中期目標期間における教員人事計画」を策定している。

2 項目別評価

<評価結果の概況>

| | 特 筆 | 順 調 | おおむね 順調 | やや遅れ | 重大な 改善事項 |
|-------------------|-----|-----|------------|------|-------------|
| (1) 業務運営の改善及び効率化 | | | ○ | | |
| (2) 財務内容の改善 | | ○ | | | |
| (3) 自己点検・評価及び情報提供 | | ○ | | | |
| (4) その他業務運営 | | ○ | | | |

I. 業務運営・財務内容等の状況

(1) 業務運営の改善及び効率化に関する目標

①組織運営の改善、②事務等の効率化・合理化

【評定】中期計画の達成に向けておおむね順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載13事項が「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められるが、1事項について中期計画に鑑みれば年度計画の設定が不十分であること等を総合的に勘案したことによる。

平成27年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

○ 学長の基本方針の策定とガバナンス体制の強化

「千葉大学のビジョン」及び学長の基本方針である「TOKUHISA PLAN」を策定するとともに、学長を補佐する副学長を増員し、学長がリーダーシップを発揮できる体制を強化している。

○ 「千葉大学ブランドの創出」に向けた集中討議の実施

外部有識者からの意見を参考に、「学長と学部長等との夏季特別集中討議」を2日間にわたり開催し、研究分野の垣根を越えた新しいイノベーションの創出をテーマに議論し、情報の共有と意識改革を進めている。

○ 他機関と連携した男女共同参画に向けた取組

東邦大学及び放射線医科学研究所と連携し、「ダイバーシティCHIBA研究環境促進コンソーシアム」を設立している。各機関の強みを活かし、多様な立場や経験をもつ人材が広く活躍できるダイバーシティ研究環境を実現することで、女性教員の採用や上位職の女性比率の向上を目指している。千葉大学においては、職員のワーク・ライフ・バランスの支援と教育・研究環境のダイバーシティ実現に向けて取り組んでおり、この趣旨に積極的に賛同している企業及び千葉市とともに、「イクボス共同宣言」を行っている。

平成27年度の実績のうち、下記の事項に**課題**がある。

○ 年度計画の設定不十分

「教員の定期評価の実施方法等の検証及び教員評価の在り方の検討結果を踏まえ、教員の評価を実施する。(後略)(実績報告書52頁・年度計画【66】)」については、教員の定期評価は実施しているものの、中期計画で定める、教員の能力や実績を適切な処遇に結び付ける制度の実施には至っておらず、中期目標期間の最終年度であることに鑑みれば、年度計画の設定が十分とは言えない。

(2) 財務内容の改善に関する目標

①外部研究資金その他の自己収入の増加、②経費の抑制、③資産の運用管理の改善

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載5事項すべてが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

平成27年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

○ 経費節減に向けた取組

西千葉キャンパスでは、「地下水浄化システム」により上水道料金を対前年度比1,940万円削減し、附属病院では、消耗器材や衛生材料の医療材料の一部について、千葉市の2病院との共同購入により経費削減を図っている。

(3) 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

①評価の充実、②情報公開や情報発信等の推進

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載2事項すべてが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

平成27年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

○ 広報活動の推進に向けた取組

積極的な広報活動の推進や緊急事態における情報の迅速な発信等を行うため、広報マインドの醸成、正確かつ適切な情報発信、効果的な広報活動の推進、統一的な広報活動の推進を柱とする広報基本方針を策定し、同方針に基づく短期集中型の研修を行っている。

(4) その他業務運営に関する重要目標

①施設設備の整備・活用等、②環境管理、③安全管理、④法令遵守、⑤大学支援者等との連携強化

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載6事項すべてが「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、平成26年度評価において評価委員会が指摘した課題について改善に向けた取組が行われていること等を総合的に勘案したことによる。

平成27年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

○ 学生主体による環境マネジメントと成果

環境負荷の軽減に全学で取り組んでおり、環境ISO学生委員会の学生が、環境ISO事務局における実務実習という形で環境マネジメントシステムに参画している。また、学生主体で行っている取組が評価され、「第1回サステイナブルキャンパス賞」、「第25回地球環境大賞の文部科学大臣賞」等、環境マネジメントに係る賞を多数受賞している。

II. 教育研究等の質の向上の状況

平成27年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

○ コース・ナンバリングによる教育課程の体系化・可視化

博士後期課程を除く授業科目にコース・ナンバリングを導入するとともに、「千葉大学におけるコース・ナンバリングの原則」と各学部・研究科（学府）のカリキュラム・ツリー（学科・専攻毎）を公表している。

○ 教育IR活動における調査分析と展開

「千葉大学の教育IRの基本的考え方」に基づき、教育IR活動における調査分析を行い、データ分析集及び各部局毎の教育状況をまとめた「千葉大生の学びのいま」を作成し、各部局の教育状況をモニタリングする基点を構築するとともに、「学長と学生との懇談会」の基礎資料とするほか、学内のFD、SD研修における活用を視野に入れるなど、各教員・職員・学生に展開・波及する仕組みを作っている。

○ 中堅・若手研究者の戦略的育成支援

世界水準の研究を推進する中堅・若手研究グループに対し、多面的な支援を行うことにより、研究の加速と国際共同研究の推進及び国内外研究ネットワークの構築等による研究基盤等の強化と拡大を図ることを目的とした「リーディング研究育成プログラム」を開始している。近い将来における大学の研究面の核となり得る4件の提案を採択し、平成30年度まで全学的に支援することとしている。

○ 各種研究プロジェクトによる顕著な研究成果

✓ ニンニクの薬用成分を作る鍵となる遺伝子の発見

理化学研究所、食品企業等との共同で、ニンニクの薬理効果や健康機能作用の鍵となる酵素遺伝子を世界で初めて発見し、英国科学雑誌に掲載されている。

✓ 植物工場における葉の老化抑制を実現する新たな植物栽培システムの開発

植物工場において、上方照射を加えることによって、外側の葉の老化を抑制することを世界に先駆けて初めて証明し、スイス科学雑誌オンライン版に掲載されている。

✓ 変動する光環境から身を守る植物のメカニズムの解明

弱光と強光を繰り返す「変動する光環境」で光合成応答を最適化するのに重要な役割を果たすことを明らかにし、英国科学雑誌オンライン版に掲載されている。

○ 大学教育の質的転換を担う人材の育成拠点

アカデミック・リンク・センターは、能力ルーブリックの開発と実践的SDプログラムの実施により、教育・学修を支援する新たな専門職の安定的・体系的育成を行っている。

共同利用・共同研究拠点関係

○ ひまわり8号のデータアーカイブの整備

環境リモートセンシング研究センターでは、学内資源の再配分により、サーバ室の改修やデータ処理・公開業務を専任で行う特任研究員1名を採用し、関連コミュニティからの要望が極めて高い気象庁の衛星ひまわり8号のデータが含まれる「衛星データアーカイブ」を整備し、公開している。

附属病院関係

(教育・研究面)

○ 研究費助成による先進医療開発の推進

先進医療実現のための質の高い臨床試験の実施に係る経費として「先進医療開発推進経費」を設けており、先進医療として進行中の研究1件、医師主導治験として進行中の研究3件を含む、計9件（新規3件、継続6件）の研究シーズに対して研究費の助成を行うなど、先進医療開発を推進している。

○ 「認知症疾患医療センター」における認知症啓発活動

認知症疾患医療センターにおいて、学齢期の子供達への認知症教育活動に重きを置いた「認知症キッズワークショップ」を開催し、子供による子供のための認知症啓発パンフレットの作成等を通じて認知症に関する知識の向上を図るなど、地域ネットワーク形成や市民への啓発活動を行っている。

(診療面)

○ がん患者及び脳卒中患者に対する包括的支援

外来診療機能の充実・強化を図るため、がん患者の治療中からその後にかけての身体及び精神的な症状、生活上の問題点等の緩和・援助を行う「緩和ケアセンター」を設置するとともに、あらゆるタイプの脳卒中に迅速かつ集学的に対応し、患者の早期回復と長期にわたる再発予防を目指す「包括的脳卒中センター」を設置するなど、がん患者及び脳卒中患者に対する包括的な支援を行っている。

○ 危機管理体制及び医療安全体制の強化

医療事故に対する危機管理体制及び医療安全体制を強化するため、新たに危機管理担当副病院長の設置や医療安全専任教授の採用を行うとともに、高難度新規医療技術を必要とする先進的な医療行為等を審査する「臨床倫理審査委員会」を設置している。また、院内全死亡事例に対するスクリーニングを開始し、介入の必要性のある症例の把握を行い、病院長へ報告を行う体制を整備している。

(運営面)

○ 外来診療体制の充実及び経営改善

新しい外来診療棟が全面開業したことにより、外来患者数及び外来診療単価ともに増加するなど、外来診療体制の充実及び経営改善を図っている（外来延患者数：平成26年度49万9,405名 → 平成27年度51万8,550名、 外来診療単価：平成26年度18,295円 → 平成27年度19,861円）。